



もう嘘はつかない。  
僕たちの  
“これから”の物語

his

# 人を愛することの素晴らしさ

# 自分に正直に生きることの大切さ

好きな人と一緒に生きていくために社会と向き合おうとする男性二人の姿を描いた映画『his』が、1月24日より公開されます。これを記念し、本作品で映画初主演に抜擢された俳優の宮沢氷魚さんと、LGBTQ啓発活動を展開している七崎良輔さんが対談。作品の感想や今の世の中について思うことを語り合いました。

## 同性カップルのリアルな姿を 真正面から描いた物語

**七崎** 映画、とても良かったです。当事者としては同性のカップルが取り上げられていることがまずうれしかったし、リアルなところもきちんと描かれていると思いました。それでいて一つのシーンが美しく、心に残る温かいセリフも多くて……一人でもたくさんの人に見てほしいと思いました。

**宮沢** ありがとうございます。僕、ずっとこういう役をやりたいと思っていました。高校までインターナショナルスクールの男子校で、アメリカで暮らしていたこともあって、友だちの中に同性愛の人がいるのは「普通」なことでした。だけど日本へ帰ってきてみたら「普通」だと思っていない人や無知な人が多くてとてもショックだったんです。だからこの役は絶対僕がやりたい、と思いました。

**七崎** 演じる上でその友だちからアドバイスも受けたらいいなと思います。

**宮沢** 久しぶりに連絡を取って一緒にごはんを食べに行きました。でも、彼は幼稚園からの友だちなので今さら改めて何かを聞くのは何となく恥ずかしくて、具体的な質問はしていません。ただ彼の目を見て話すことで初めて感じることはたくさんありましたね。僕がそういう役を演じることを打ち明けたら、彼もとても喜んでくれました。

## 子供を育てる 「普通」の環境って何？

**七崎** 本当の自分を隠して孤独に生きる人と、一度は結婚して子どもをもうけたものの元に戻ってきた人。当然ですが、私たちがいるいろいろな人がいて、私自身はカミングアウトするのもしないの個人で選択しています。ただ、本当は言いたいのに社会からの抑圧で言えなかったり、言ったことで不当な目に遭ったりする世の中は変えていきたいですね。

**宮沢** 今回、僕たちにとってLGBTQをテーマにするのは初めての経験でした。なので、監督はじめキャストもスタッフも悩みながら考えながら、撮影を進めていきました。意見交換もけっこうあって、結局はみんな一つの方向を向くというよりも、各々が感じることを大事にしてながら作っていく、ということになりました。同じシーンも撮っているのに、僕と宮沢が感じる感じ方は違っていたと思うし、今泉監督も違っていたかもしれません。でも、それがあって良かったのではないかと思います。

**七崎** 今、男性のパートナーと生活していますが、感じ方や考え方は彼と私では全然違います。一人ひとりの考え方や感じ方を大切に作る作り方がこの作品にリアリティを与えているのかもしれないですね。宮沢さんの娘、空ちゃんを含めた三人で生きていく、と決めて勇気を出して立ち上がる宮沢さんと宮沢さんですが、宮沢さんとその妻の玲奈さんの離婚調停のシーンでは男性二人で子供を育てるのは普通じゃないとかいろいろ言われますよね。私たちが同じような固定概念を周りに押しつけて苦しめていることを今更に感じています。

**宮沢** 子供は男女で育てるのが「普通」ってことなんじゃないですかね。大半の人がそうだからそれを「普通」と呼んでいるだけで、それだけが正しいなんて言えないんじゃないかと思っています。

**七崎** そうですね。映画の中では二人が愛し合うことに対してどうしてそれが変なの？と聞いたり、「パパとママと宮沢さんも、みんなで一緒に暮らそうよ」と無邪気に言う空ちゃんの真っ直ぐな言葉が光っています。町の人たちの前で二人の関係についてアウティングみたいなことをポロッと口にした時は、私も「あー」と焦りましたけど(笑)。

**宮沢** 周りの大人たちは固まるんですけど、空ちゃんは全くの自然体で何が悪いの？って感じて(笑)。

**七崎** そうなんです。子どもは何か「普通」かなんて知らない。そんな子どもに大人が「そんなこと言っちゃいけない」とか「あの人たちを見ちゃいけない」とか言うことで、子どもに「普通」を押し付けてしまおうの、だろーと思えます。

## わかってくれる人が いることが救いになる

**宮沢** 退社してからラッキーだったのは、退社した住む町の皆さんをはじめとする周囲の人たちが、戸惑いながらも寄り添ってくれたことだと思います。まだカミングアウトしていません。



みやざわ ひお / 1994年、アメリカ・カリフォルニア州サンフランシスコ生まれ。「MEN'S NON-NO」専属モデル。2017年にテレビドラマに出演し俳優デビュー。以後、ドラマや映画、舞台で活躍する。19年夏にドラマ『偽装不倫』で演じたヒロインと恋に落ちる年下カマラン役が話題に。20年3月に上演されるPARCO劇場オープニング作品『ピサロ』に出演予定。



よねむす 良輔 / 1987年、北海道生まれ。「LGBTコミュニティ江戸川」代表。LGBTのためのウェディングプランニング会社「合同会社Juerias LGBT Wedding」を起業し、全ての人が幸せになれる結婚式を提供するために活動中。2019年、北海道での少年時代から現在のパートナーと出会うまでの日々を綴った著書『僕が夫に出会うまで』(文藝春秋)を刊行。

アウトできない退社のことを、それも含めて全部受け止めてくれる緒方さんと一緒に時だけは彼もとても穏やかな顔をしています。退社が「長生きせよ」と声を掛けられるシーンがありますが、僕は人生あの言葉に尽きるなと思います。辛いことも幸せなことも、生きていくからこその経験できるし、人にも伝えられる。「どんなに辛くてもとにかくがむしゃらに生きる」というパワーを感じました。

七崎 私もある言葉には泣きましたね。あの時、周りには他のお年寄りも大勢いて、ひよっとしたらその中には二人に批判的な人がいたかもしれない。だけど、あんな風にわかってくれる人が一人いれば、それだけで生きていけるんですよ。当事者って、七崎さんにもそういう人がいましたか。

**七崎** 20歳で初めてカミングアウトした女友だちがそうでした。その時に「あ、人ってわかってくれるんだな」と気づいたんです。この映画を見た人の中から、二人でもそういう人が出てくれば、ひよっとしたら誰かを救えるかもしれない。この映画を見ながらそんな希望を感じていました。

**宮沢** この映画が公開されたからといって、世の中が大きく変わることはないと思います。だけど、自分の周りにもいろいろな感じ方があって、自分らしい生き方を選びたいと考えている人もいます。そういう人たちに思いを馳せるきっかけにこの映画がなれたらうれしいです。

“自分らしく生きる”とは？  
この映画が考える  
きっかけになったら  
とてもうれしい



宮沢氷魚  
HIO MIYAZAWA

七崎良輔  
RYOSUKE NANASAKI

his

1.24 fri 全国ロードショー

www.phantom-film.com/his-movie/

Story  
ストーリー

本当の自分を周囲に知られることを恐れ、田舎でひっそりと暮らす井川迅(宮沢氷魚)。その前に、思い続けたかつての恋人・日比野渚(藤原季節)が6歳の娘・空を連れて現れる。いつしか渚と空の三人で生きていく決心をする迅だったが、渚の離婚調停を通して社会のリアリティを突きつけられていく。『愛がなんだ』や『アイネクライネナハトムジーク』など、恋愛映画に定評のある今泉力哉監督がLGBTQというテーマに初めて挑んだ話題作。恋人や子供といった周囲の人々との関わり方を問いかける2020年の今、見るべき作品だ。

宮沢氷魚 / 藤原季節  
松本若菜 松本穂香 / 外村紗玖良 中村久美  
鈴木慶一 根岸季衣 堀部圭亮 戸田恵子  
監督：今泉力哉  
企画制作：メーテレ 配給・宣伝：ファントム・フィルム  
© 2020 映画『his』製作委員会